

丸善CHIホールディングス株式会社

経営計画

2021年4月26日



MARUZEN CHI
Holdings

経営理念・環境認識

経営理念

価値観：知は社会の礎である

グループ
ビジョン

知の生成と流通に革新をもたらす企業集団となる

環境認識

- 人口減少に伴い、国内市場は緩やかに縮小
 - 大学・自治体等の書籍購買予算も横ばいまたは微減傾向
 - 一方、高齢化社会や地方創生による新たな社会ニーズが顕在化
 - 書籍・雑誌販売額及び書店数はピーク時（1996年）の半分を割り込む
- ▼
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、消費者・読者の生活スタイル、購買スタイルが変化し、デジタル技術の進化が加速
 - ネット小売、電子書籍、電子教材、電子図書館が拡大

事業戦略テーマ

経営理念

価値観：知は社会の礎である

学びとともに生きる社会への取り組み

地域創生への貢献

新しい書店収益モデルの創造

戦略テーマ別取り組み

学びとともに生きる社会への取り組み

事業課題

- 人生100年時代、高齢化、IT化が進み、学びや働き方が大きく変化
- より幅広い世代に、広範な知識や技能を身につける機会が必要となる

取り組み

人生100年時代に必要な学びのコンテンツと仕組みを提供する事業を拡大

- 図書館運営をはじめ、知との接点をより安全・安心なものに
- ICTを活用し、コロナ禍でも教育の質を支える仕組みを提供
- デジタル技術を活用し、新しい読書環境や知へのアクセスを創出

戦略テーマ別取り組み

地域創生への貢献

事業課題

- 人口減少社会の中、地域創生はこれからの日本の大きな課題
- 地域ごとの暮らしを、どのように豊かなものにしていくかが、求められていく

取り組み

これまで培った図書館運営や、学習環境づくりのノウハウを活用し地域創生事業を拡大する

- 各自治体や地域の生活者、教育機関等と連携し、活性化に貢献するプラットフォームづくりを推進
- 地域の知的・文化的な生活やコミュニティ活動を支援する施設運営（敦賀市 知育・啓発施設、海南省 海南nobinosなど）

戦略テーマ別取り組み

新しい書店収益モデルの創造

事業課題

- 業務の効率化、集客力や品揃えの向上など、収益構造改善施策を推進
- コロナ禍により大きく減収となるも、これまでの取り組みに一定の成果が見られる

取り組み

これまでの取り組みを継続・強化し、さらなる収益力の向上により安定的な黒字体質を構築

- ICTを活用した業務や販促の効率化推進
- 映像・デジタル技術を活用した新たな本との接点や読書体験の創造
- スクラップ&ビルド・魅力ある店舗づくり

収益計画

これらの施策により、売上は店舗・ネット販売事業の回復から増収となるものの、新型コロナウイルス感染症拡大下における特殊要因として、前年に電子書籍、電子図書館、書籍除菌機等の大きな需要増があったことに加え、コロナ禍後の市場において、社会動向や消費者動向の変化による市場環境の予測には不透明感が残ることから、2022年1月期の業績予想は現時点で増収減益としております。

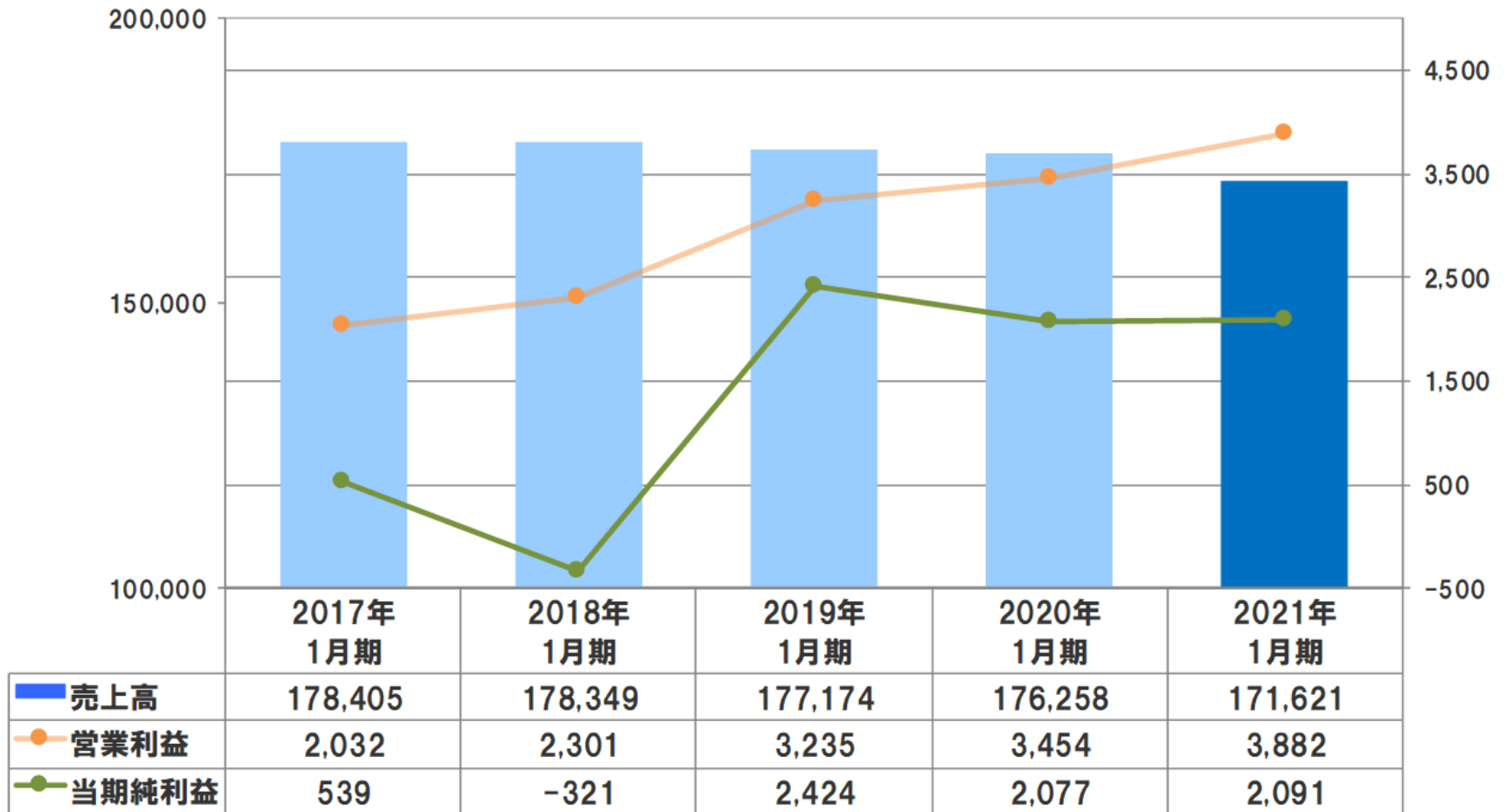
(単位：百万円)

【2022年1月期予想】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期業績予想	177,000	3,600	3,450	1,900
当期実績（通期）との比較	5,379 103.1%	-282 92.7%	-260 93.0%	-191 90.9%
【2021年1月期通期実績】	171,621	3,882	3,710	2,091

配当および資本政策

- 当社グループは、株主に対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、今後の事業拡大に備えた内部留保を図りながら、業績に応じた配当を行うことを基本方針としております。
- 当社を取り巻く市場環境は、出版物販売額の長期に亘る減少、コンテンツ流通の多様化、少子化による学生数の減少など、今後も大きな変化が継続するものと考えます。
- これらの市場環境、社会環境の変化への対応として、当社では本経営計画記載の施策を中心に推進することで、安定的な収益体質を構築し、長期に亘って株主に対して安定的に利益還元できる収益体質の構築に努めます。

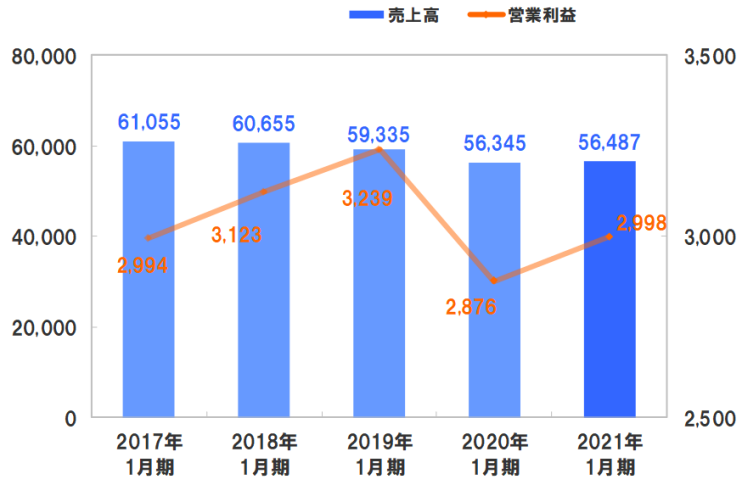
参考：全社業績推移



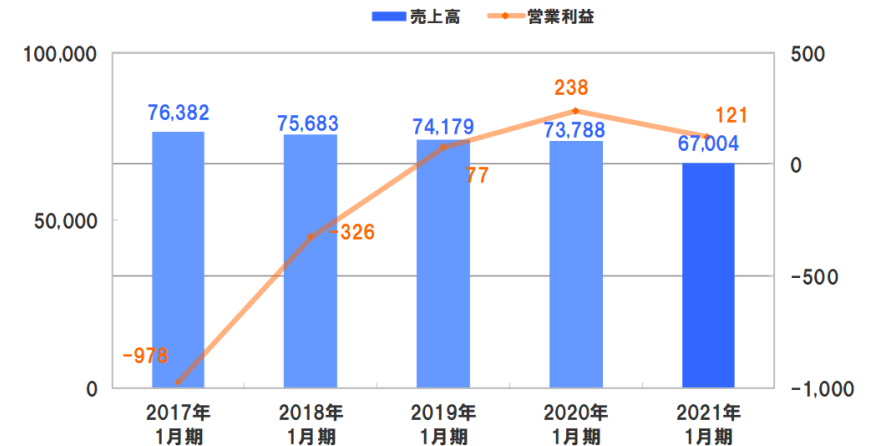
(単位:百万円)

参考:セグメント業績推移

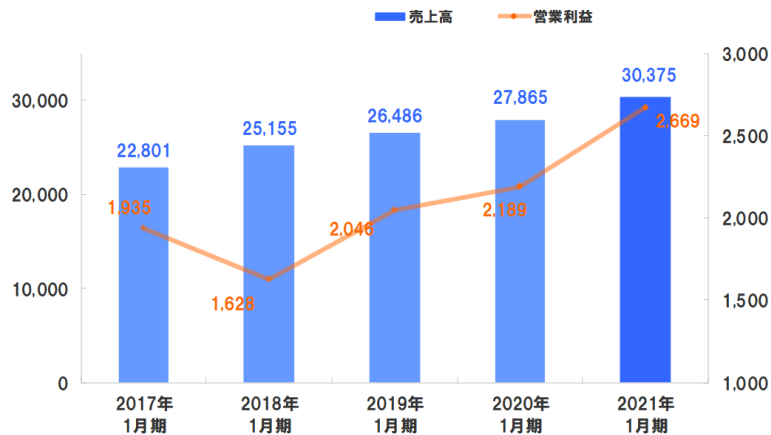
文教市場販売事業



店舗・ネット販売事業



図書館サポート事業



出版事業



参考:セグメント業績推移

その他事業

